

平成28年度 事業報告

日本経済は、海外景気の下揺れなど景気を下押しするリスクや金融資本市場の変動に留意する必要があるものの、雇用・所得環境の改善傾向が続き、各種政策の効果もあり、穏やかに回復していくことが期待されています。

また、人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少をさらに加速させる悪環境の中で、国や地方はこの悪環境の克服に向けた取組を全力で進めています。

このような状況の中、シルバー人材センターは、高齢者の多様な就業ニーズに応じ、地域社会の日常生活に密着した臨時的かつ短期的又は軽易な就業機会を確保・提供し、併せて高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進により、地域社会の活性化に貢献しています。

本年度においては、中期事業計画を踏まえ、会員及び役職員が一体となって、センター理念である「自主・自立、共働・共助」を基本におき、会員の増強に取り組みましたが、大型商業施設の進出により雇用環境に影響が生じ結果的には、会員数が前年度より37名減の1,394名となりました。

また、受託事業は、前年度に比べ5,087千円の減で595,208千円、シルバー派遣事業では、積極的な就業開拓活動を進めた結果、前年度に比べ20,307千円の増で155,599千円となり、受託事業を合わせた実績額は、前年度に比べ2.1%アップの750,807千円となりました。

一方、収支決算では、緑のリサイクル作業場に堆積する破碎チップが、豪雨等に伴う浸水により作業場外に流出することが強く予想されるため、これを防止するための関連工事や同工事の支障となる堆積チップの搬出処理を急遽実施したことなどにより、当期収支差額が4,132千円の赤字となりました。

以下、事業実績等についてその概要を報告いたします。

I シルバー人材センター事業（公益目的事業）

1 高齢者の生きがいと社会参加の促進

高齢者の生きがいと福祉の向上を図り、活力ある地域社会づくりに寄与するため、高齢者の入会促進に努め、又、就業上必要な技能及び知識を付与することにより、高齢者の能力や希望を生かした就業機会等を実現し、多様なニーズに応えました。

（1）会員の入会促進事業

高齢者の入会を促進するために、入会説明会を毎月2回実施し、171人の方が入会しましたが退会者が208人となり、会員数は前年度より37人少ない1,394人となりました。

(2) 受託及びシルバー派遣事業

公共、公社公団、民間企業、一般家庭などへ、会員の豊富な経験や能力を生かせる就業機会の開拓に努め、会員の皆さんにそれぞれの希望や能力に応じた就業提供を行いました。

① 受託事業

契約件数は、12,910件(△1.2%)で前年度と比較し155件の減となり、また、就業延人員は、127,314人(3.3%)で前年度と比較して4,044人の増となりました。契約金額は、595,208千円で、前年度と比較し5,087千円(△0.8%)の減となりました。

② シルバー派遣事業

契約件数は、179件(△9.1%)で前年度と比較し18件の減となり、また、就業延人員は、33,259人(12.6%)で前年度と比較して3,731人の増となりました。契約金額は、155,599千円で、前年度と比較し20,307千円(15.0%)の増となりました。

③ 目標数を上回った合計

就業延人員	160,573人	(前年度比	5.1%)
契約金額	750,807千円	(前年度比	2.1%)

(3) 講習会等の推進事業

生きがいや社会参加のため、就業を希望する高年齢者を対象に、シルバー人材センターで就業が見込める技能・知識の講習を行い、就業機会の実現に努めました。

- ① 剪定班ランクアップ研修を2回実施、17名がランクアップ
- ② 剪定班新人養成研修を2回実施、16名が受講
- ③ シルバーふれあい教室では、新しい教室の実施に向け、スキルアップ研修を4回実施、延べ46名が受講

(4) シニアワークプログラム地域事業

一般の高年齢者を対象とした、就職・就業の促進を図るシニアワークプログラム地域事業を県連合会と共同で下記4講習を実施しました。

- ① 家事援助サービス講習、9名が受講修了(内会員1名)
- ② 介護職員初任者研修、15名が受講修了(内会員1名)
- ③ フォークリフト技能講習、14名が受講修了(内会員4名)
- ④ 事務補助養成講習、17名が受講修了(内会員1名)

(5) 相談支援事業

高齢者ニーズ（就業、ボランティア活動等）に関する相談、情報提供を行うことにより、高齢者の能力や希望を生かした就業等の社会参加活動を推進しました。

- ① なんでも相談を毎月第1・3火曜日に実施、延べ55人の相談を受け、就業提供等を行いました。

2 普及啓発と就業機会の確保・拡大

(1) 普及啓発事業

センター事業が各界各層に正しく理解されるよう、普及啓発活動を積極的に推進しました。

- ① “生き生きシルバー人材センター” 普及啓発促進事業を、ふれあい健康館1階ギャラリーで、シルバー手づくりふれあい教室のバルーンアートや起き上がりこぼしで、約30人の子どもたちと遊びふれあい、また大人約180人にセンター事業の概要説明を行い、就業開拓や入会案内のチラシ、ポケットティッシュ、楊枝入れを配布しました。
また、シルバー花の土を先着200名にプレゼントしました。
- ② 問屋町「日曜市」で普及啓発活動を2回行い、シルバー花の土を先着600名に2回に分けプレゼントしました。
- ③ 会報誌「シルバーとくしま」を年3回発行し、会員及び各団体にセンター活動の情報を提供しました。

(2) 就業機会の確保・拡大事業

公共事業、民間企業、一般家庭及び関係団体等に高齢者の就業についての理解を求め、会員の運営参画による就業機会の確保と拡大に努めました。

- ① 就業開拓・促進委員会を年4回開催、中期事業計画における目標数値の見直しを行いました。
- ② 就業開拓戦略会議を7回開催、就業開拓の現状と問題点等を協議し、特に適正就業の徹底（ガイドライン）と今後の対応について協議しました。
- ③ 受託事業やシルバー派遣事業の新規就業先としての法人事業所など、就業開拓推進員3名が新たな就業機会の場の確保を図りました。
- ④ ホームページにより就業情報を提供し就業に繋げました。

(3) 福祉・家事援助事業

会員が福祉・家事援助サービスを必要とする高齢者や病弱者等に提供するサービスとして、福祉・家事援助サービス、軽度生活援助事業、産前・産後家事育児支援事業（ママに安心ヘルプ事業）を実施しました。

契約件数は、2,214件（△9.3%）で前年度と比較し228件の減となり、また、就業延人員は、11,381人（△7.7%）で前年度と比較し945人の減となりました。契約金額は、29,675千円（△7.7%）で前年度と比較し2,474千円の減となりました。

(4) 女性活動活性化事業

シルバー人材センターにおける女性会員の活動の充実や活性化に関する事項を協議、検討し、その対策を推進するため、次の事業を実施しました。

- ① 女性活動推進委員会を年3回開催しました。
- ② 女性会員募集チラシ2,000部を作成し、シルバーとくしま春季号の配布時に「ロコミで1人がひとりを誘う運動」として、全会員に配布し、友人、知人を誘ってもらうよう呼びかけました。
- ③ 女性活動推進員が、平成28年10月のふれあい健康館及び平成29年3月の問屋町日曜日にて、シルバー事業のPRや女性会員の入会促進活動を行いました。
- ④ 女性会員の就業意識やニーズを把握し、次年度の新事業の資料とするため、アンケートを実施しました。（平成28年9月、対象女性会員502人、回答315人、回答率62.7%）その結果の一部をシルバーとくしま正月号に紹介しました。
- ⑤ 「シルバー手作りふれあい教室」は、学童保育クラブ等に会員が訪問し、工作、バルーンアート作り、英語、手品など25種類の教室を用意し、夏休み・冬休み・春休みの期間に54回実施しました。就業延人員は166人、参加児童数は2,058人でした。
- ⑥ 「地域ふれあい教室」として、センター多目的室を日曜日に6回開放し、地域の方と楽しみながら交流し、工作や茶道などの教室を実施しました。

3 安全・適正就業の推進

会員の就業にあたっては安全就業を最優先し、各種安全啓発活動を通して会員の安全就業を推進しました。また、就業内容や就業形態については、適正な内容での受注を行いました。

(1)安全就業推進事業

シルバー人材センター事業の運営において、会員の安全就業が最重要課題であり、会員の就業中の傷害・賠償事故及び就業途上における事故の防止対策等について、安全・適正就業委員会を中核に下記の事業に取り組みました。

- ① 委員会を4回開催し、事故原因の分析と防止策の検討や事故防止の啓発活動を実施するとともに、就業現場の巡回指導を2回実施し安全就業の指導に努めた結果、前年度と比べて就業中の傷害事故は3件の減少となり、途上の傷害事故と損害賠償事故は1件の増加となりましたが、全体としては1件の減少に繋がっています。

○会員傷害・損害賠償事故発生状況 (単位:件)

区 分		H26年度	H27年度	H28年度
傷害 事故	就業中	10	8	5
	途上	8	4	5
	計	18	12	10
損害賠償		5	4	5
合 計		23	16	15

- ② 安全研修としては、地区総会開催時に交通安全研修を実施。また、入会受付時に安全就業のビデオを放映し、これから就業に付くための安全就業の意識の向上を図りました。
- ③ 安全運転講習を実施し、就業会員4名が座学と実技を学び安全運転での就業に努めました。
- ④ 啓発活動としては、会報誌に事故内容等を掲載し、安全意識の向上を図りました。

(2)適正就業推進事業

受託事業及びシルバー派遣事業の就業における内容や形態は、適正就業ガイドラインを基本として受注し、公平・公正な就業提供を行い、コンプライアンスを徹底し、安全・適正就業委員会を中核に、下記の事業に取り組みました。

- ① 委員会を4回開催し、適正な就業に基づき、ローテーション就業やグループ就業に努めました。
- ② 分ち合い就業に関する要綱に基づき、公共、公社・公団事業の就業場所の情報を提供し、選考基準に基づき24名が就業しました。
- ③ 適正就業ガイドラインのパンフレットを、会員及び発注者に配布し、適正

な就業について周知を図りました。

4 組織体制の充実強化

シルバー人材センターの理念である「自主・自立、共働・共助」を基本とし、会員による自主的な組織運営を促進しました。

(1) 地区組織活性化事業

- ① 地区組織活動の活性化を図るため、地区長委員会を2回開催すると共に、年1回の地区総会を自主的に開催し、センター情報の提供や会員相互の意見交換を行い組織活動の充実を図りました。
- ② 出席率40%の目標を掲げ、地区総会では6地区、ボランティア活動では4地区が達成しました。
- ③ 就業開拓ポスティング活動として、徳島市内に就業開拓用チラシ(家庭版)を5万部配布しました。

(2) 職域班組織活性化事業

- ① 職域班組織活動の活性化を図るために、年1回の職域班総会を2職域班が開催、ボランティア活動としては2職域班が実施し、班員同士が情報を共有し班組織活動の充実を図りました。
- ② 技術・技能向上のため、2職域班が研修会を開催し、安全就業の徹底や技能・知識の向上に努めました。

5 防災対策推進事業

傷病者の命を救い社会復帰に導くために必要な一連の行動を「救命の連鎖」と言い、この連鎖が途切れることなく、素早く繋がることにより救命効果が高まると言われています。

そこで、センター利用者は勿論、近隣住民の方々の方が一に備えAEDを設置し、街角で不慮の事故や急病により倒れ命が危険にさらされている人が、一刻も早くAEDの使用を含めた応急手当が受けられるよう、事務局職員等に普通救命講習を行い、当センターを「まちかど救急ステーション」として登録しました。

6 指定管理者業務の推進

徳島市立考古資料館の指定管理者として、考古資料館事業推進委員会を3回開催し業務を推進しました。

また、当年度で指定管理期間の満了となるため、指定管理者の申請を行い徳島市より候補者として選定され、5年間の指定管理者として指定されました。

7 その他

(1)徳島県シルバー人材センター連合会が行う下記事業に参画しました。

- ・ シルバー派遣事業
- ・ 有料職業紹介事業
- ・ 役職員研修
- ・ 調査研究事業
- ・ 普及啓発活動事業
- ・ 安全・適正就業推進事業
- ・ シニアワークプログラム地域事業
- ・ 高年齢者活躍人材育成事業
- ・ 災害ボランティアネットワーク事業

(2)全シ協、四シ協主催の研修に参画しました。

II 法人管理

1 諸会議の開催

センターの管理運営及び事業運営の執行に関して必要な会議を、次のとおり開催しました。

会 議 名	開催回数
定時総会	年1回
理事会	年8回

2 センター事務局機能の充実

公益社団法人としての適正な事業運営と円滑な事業推進を図るため、各種研修会、講習会に参加し、センター職員の資質向上に努めました。

Ⅲ 事業実績報告

1. 会員数

(単位:人)

区 分	H28 年度 A	H27 年度 B	差引 (A-B)	伸率(%)	構 成 比 %		
					H28	H27	
会員数	1,394	1,431	△37	△2.6	100.0	100.0	
内 訳	男性	865	878	△13	△1.5	62.1	61.4
	女性	529	553	△24	△4.3	37.9	38.6

(会員数は年度末数値)

2. 会員就業動向

(単位:人)

区 分	H28 年度 A	H27 年度 B	差 引 (A-B)	伸 率 %
就 業 実 人 員	943	1,007	△64	△6.4
就 業 延 実 人 員	22,764	22,647	117	0.5
就 業 延 人 員	127,314	123,270	4,044	3.3
就 業 率	67.6	70.4	△2.8	△4.0
一件当りの就業日数	5.6	5.4	0.2	3.7

※ 就業率 = (就業実人員 ÷ 会員数) × 100

※ 就業一件当りの就業日数 = 就業延人員 ÷ 延実人員

3. 受託事業契約動向

(単位:千円)

区 分	H28 年度 A	H27 年度 B	差引 (A-B)	伸 率 %	構 成 比 %		
					H28	H27	
契 約 件 数	12,910	13,065	△155	△1.2	100.0	100.0	
内 訳	公 共	2,144	2,111	33	1.6	16.6	16.2
	民 間	10,766	10,954	△188	△1.7	83.4	83.8
契 約 金 額	595,208	600,295	△5,087	△0.8	100.0	100.0	
内 訳	公 共	181,684	177,482	4,202	2.4	30.5	29.6
	民 間	413,524	422,813	△9,289	△2.2	69.5	70.4

※ 契約件数は月1件の累計数値

4. 受託事業職業別実績

(単位：円)

職 業	契 約 件 数	就業延人員 (人)	契 約 金 額	構 成 比 (%)		
				契 約 件 数	就業延人員	契 約 金 額
管 理 的	0	0	0	0.0	0.0	0.0
専 門 的 ・ 技 術 的	168	1,896	14,338,074	1.3	1.5	2.4
事 務 的	185	2,287	12,818,519	1.4	1.8	2.2
販 売	12	48	50,916	0.1	0.0	0.0
サ ー ビ ス	2,830	26,638	117,622,129	21.9	20.9	19.8
保 安	0	0	0	0.0	0.0	0.0
農 林 漁 業	2,359	8,489	83,685,334	18.3	6.7	14.1
生 産 工 程	407	7,352	17,717,412	3.2	5.8	2.9
輸 送 ・ 機 械 運 転	0	0	0	0.0	0.0	0.0
建 設 ・ 採 掘	152	509	8,980,741	1.2	0.4	1.5
運 搬 ・ 清 掃 ・ 包 装 等	6,797	80,095	339,994,815	52.6	62.9	57.1
計	12,910	127,314	595,207,940	100.0	100.0	100.0

5. 会員就業配分金動向

(単位：円)

区 分	H28年度 A	H27年度 B	差 引 (A - B)	伸 率 %
配 分 金	479,543,337	479,988,096	△444,759	△0.1
会員就業1日当り 平均配分金(円)	3,767	3,894	△127	△3.3

※ 会員就業1日当り平均配分金=配分金÷就業延人員

6. シルバー派遣事業職業別実績

(単位：円)

職 業	契約 件数	延人員 (日)	会員賃金 A	手数料等 B	合 計 (A+B)
管 理 的	0	0	0	0	0
専 門 的 ・ 技 術 的	0	16	64,563	19,110	83,673
事 務 的	4	425	1,532,583	433,750	1,966,333
販 売	17	409	2,135,880	583,896	2,719,776
サ ー ビ ス	91	19,987	69,635,878	17,773,358	87,409,236
保 安	0	0	0	0	0
農 林 漁 業	1	324	1,739,245	469,092	2,208,337
生 産 工 程	25	4,834	17,904,612	4,653,978	22,558,590
輸 送 ・ 機 械 運 転	3	1,170	5,925,591	1,690,139	7,615,730
建 設 ・ 採 掘	0	64	255,994	61,946	317,940
運 搬 ・ 清 掃 ・ 包 装 等	38	6,030	23,879,867	6,839,261	30,719,128
計	179	33,259	123,074,213	32,524,530	155,598,743

※ 契約件数=年度期間中に契約及び契約更新を行った件数

7. 会員賃金動向

(単位：円)

区 分	H28 年度 A	H27 年度 B	差 引 (A-B)	伸 率 %
会 員 賃 金	123,074,213	107,370,237	15,703,976	14.6
会員就業1日当り 平均賃金(円)	3,700	3,636	64	1.8

※ 会員就業1日当り平均賃金=会員賃金÷就業延人員

8. 有料職業紹介事業実績

項目 業務等	求 人				求 職		
	有 効 求 人 数	常 用 求 人 数	臨 時 求 人 延 数	日 雇 求 人 延 数	常 用 就 職 件 数	臨 時 就 職 延 数	日 雇 就 職 延 数
〇〇職業	0	0	0	0	0	0	0